

【中学校】【国語科】の自ら学習を調整する活動に重点を置いた授業実践

日 時 令和6年9月30日（月）～10月2日（水）

対 象 花巻市立花巻中学校 第1学年 1クラス

授業者 総合教育センター 研修指導主事 西澤 孝司

1 単元名
時を超える言葉「故事成語」 ～言葉の成り立ちを知る良さに迫る～ 主教材：「今に生きる言葉 矛盾」

2 単元の目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。 (3) ア	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。 C (1) オ	言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。

3 単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。	「読むこと」において文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行っている。	粘り強く考えを確かなものにし、学習したことを生かして単元の学習課題に対する自分の考えを説明しようとしている。

4 自ら学習を調整する活動を促す学習指導
本単元では「言葉の成り立ちを知ることのよさは何だろうか」という単元の学習課題を設定し、その課題に対する自分の考えを交流する言語活動を設定し、本単元の主たる目標である「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる（読むことオ）」に迫ることを目指す。また、本単元での学習を進めていくにあたり、生徒が主体的に学びを調整しながら学習を進めることができるよう、下記のとおり自己調整の充実を図ることとする。 視点1「学習の見通し」●生徒の実態に即した単元の学習課題の設定と学習の見通しの共有 単元の導入で本単元の学習課題や目的について生徒と共有し、見通しをもって学習を展開できるようにする。生徒は、小学校第3学年で故事成語と出会っているが、故事成語がどのようなものであるかについては理解が不十分である。また、日常生活の中でも無自覚に故事成語を使用していることに気づき、興味や関心をもつことができるようにする。さらに、故事成語「完璧」の故事を取り上げ、故事と意味の結びつきを紹介し、「言葉の成り立ちを知ることの良さは何だろうか」という単元の学習課題に迫ることを確認する。第1時で単元の学習課題に対する現段階での考えを書き、単元の最後には自分の最適解として改めて考えをまとめることを確認し学習をスタートする。 視点2「学習課題を解決するための学習活動」●目的意識のある意図的な他者との対話的な学習 本単元では、クラウドを活用し他者との交流を通して自分の学習を調整できるようにする。他者との交流の中でクラウド上にある他者の考えを参照しながらお互いの考えを説明し合ったり、比較したりする活動を行うことで、学びを調整する必然性が高まると考える。その実現のために第2時では共通課題として「矛盾」の成り立ちについて説明し合う活動を行う。自分の説明と他者の説明を比較しながら交流し、自分の説明をより良いものにしていく。第3時では、自分が選択した故事成語の成り立ちの説明をしていく。第2時の学習をモデルにしながら個別、協働で学習を進めていくが、途中段階で交流する相手を自由に選択し自分の考えを見直し、修正してよいこととする。同じ故事成語を選んだ人同士、違う故事成語を選んだ人との交流を通し、自分の説明をより確かなものとしていく。第4時ではこのような協働的な学習で学んだことを根拠としながら単元の学習課題に対する自分にとっての最適解を形成していく。 視点3「学習の振り返り」●単元の学びの実感や有用感を促す学習の振り返り 単元学習シートを活用しながら、第1時からの学習の振り返りを蓄積できるようにしする。また、単元の学習課題に対する変容が分かるように課題に対する学習前後の考えを同一シートに記録することで学びの実感をもつことができると考える。さらには、本単元の学びを今後の学習や生活にどのように生かしていくことができるのかについても考えさせ、「文化としての言語」が価値あるものであることについて実感できるようにする。このような振り返りを通し、言語文化を継承し未来へつないでいこうとする態度を養うことができると考える。

5 単元の指導と評価の計画（全体4時間）			
時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法 ◇評価[]評価の観点 ◆生徒が自ら学びを調整する学習指導
1	1 学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。 ・単元の学習課題に対する現段階の考えを書く。 【単元の学習課題】 言葉の成り立ち(故事)を知ることのよさは何だろうか。 2 本時の学習課題を設定する。 漢文を声に出して読み、表現の特徴を捉えよう。 3 漢文特有の言い回しや特有のリズムについて考える。 4 漢文特有の言い回しや特有のリズムについて全体で確認する 5 書き下し文を繰り返し読んで、漢文特有の言い回しに慣れる。 6 漢文特有の表現についてまとめる。 7 本時の学習を振り返る。	・小学校第三学年で学習した「故事成語」の学習を想起することができるようにする。 ・生徒が日常的に使用している故事成語「完璧」の故事を紹介する。 ・単元のゴールを共有し、課題意識をもてるようにする。 ・「漢文」について確認し、本時の学習課題を設定する。 ・自由に声に出してよいこととする。 ・「矛盾」の書き下し文だけではなく他の書き下し文や現代語訳文、古文と比較しながら音読するよう助言する。 ・漢文特有の言い回しやリズムを意識して音読するように促す。 ・次時の学習の見通しをもたせる。	◆単元の導入で本単元の学習課題や目的について生徒と共有し、見通しをもって学習を展開できるようにする。また、より主体的に学習に取り組むことができるようにするために、小学校での学習を想起させたり、日常にある故事成語「完璧」の故事を取り上げたりしながら、「故事成語」に対する興味をもたせたい。そこから単元の学習課題「言葉の成り立ちを知ることのよさは何だろうか」に迫ることを確認し、課題意識をもたせ、単元の最後には課題に対する考えを、自分の最適解としてまとめることを確認し学習をスタートさせる。また、本単元の学習の進め方も確認する。 ◇ [知識・技能] 観察・ロイロノート 漢文特有のリズムや言い回しについて理解しているかを確認する。
2	1 本時の学習の見通しをもち、学習課題を設定する。 「矛盾」の成り立ちを捉え、説明しよう。 2 「矛盾」の音読をする。 3 「矛盾」の故事・意味を確認する。 4 「矛盾」の成り立ちを説明できるように自分でまとめる。 5 「矛盾」の説明を交流したり分からないところを質問したりする。 6 全体で「説明」や例文を確認する。 7 本時の学習を振り返る。	・本時の学習の見通しをもてるようにする。 ・前時の学習を意識させる。 ・故事と意味の結び付きを捉えた説明となるよう助言をする。 ・必要に応じて漢和辞典や漫画故事成語など参考資料を活用する ・早く終わった生徒は例文作成するよう促す。 ・他者の説明と比較しながら修正することを助言する。 ・次時の学習の見通しをもてるようにする。	◆ロイロノートを活用し、他者が考えた「説明」を閲覧できるようにし、交流したい相手を自分で決め、自分の「説明」を紹介したり、他者の「説明」を聞いたりする。疑問に思ったことや、自分がわからないことについても自由に質問しながら自分の学習を調整し説明をより良いものにしていく。個人で学習したり、他者と交流したり、教師に相談したりするなど自分で時間の使い方を決めさせる。

5 単元の指導と評価の計画（全体4時間）			
時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法 ◇評価[]評価の観点 ◆生徒が自ら学びを調整する学習指導
3	1 本時の学習の見通しをもち学習課題を設定する。 自分が選んだ故事成語の成り立ちを捉えよう。 2 選んだ故事成語の音読をする。 3 選んだ故事成語の故事と意味を確認し、成り立ちを捉える。 4 本時の学習を振り返る。	・同じ故事成語を選んだ人同士で集まってグループを作成する。 ・漢文特有の言い回しやリズムを意識しながら音読するように助言する。 ・前時の学習をモデルとしながら学習を進めていく。 ・個人の進捗状況をロイロノートや机間巡視しながら確認し、適宜助言指導を行い、学習が滞らないようにする。 ・次時の学習の見通しをもてるようにする。	◆前時と同様に自分の考えを確かなものにするために必要な参考資料や漢和辞典等を自由に使いながら説明を作成していく。本時は教師の指示で、学習を進めるのではなく、生徒が自分の判断で個別、協働で学習を進めてよいこととする。参考資料を活用したり他者と交流したりしながら学習を調整し課題解決させる。
4	1 本時の学習の見通しをもち、学習課題を設定する。 故事成語の成り立ちを説明し合い、単元の学習課題に対する自分の考えをまとめよう。 2 故事成語の音読をする。 3 故事成語の成り立ちを説明する。 4 単元の学習課題について自分の考えをまとめる。 5 単元の学習課題について交流する。 6 単元の学習を振り返る。	・漢文特有の言い回しやリズムを意識しながら音読するように助言をする。 ・本単元の学習したことを踏まえ考えを形成するよう促す。 ・他者の考えを共感的に傾聴し、多様な価値を認識することができるようにする。	◇ [思考・判断・表現] ロイロノート 前時までの学習を踏まえ、単元の学習課題に対して自分にとって最適な考えを形成しているかを確認する。 ◇ [主体的に学習に取り組む態度] 観察 単元の学習課題に対して自分の考えを積極的に説明しようとしているかを確認する。 ◆本単元の学習内容や学習方法について振り返るとともに、本単元の学びを今後の学習や生活にどのように生かしていくことができるのかについても考えさせ、学びの達成感をもたせたい。また、言葉は「文化としての言語」であり、価値あるものであることを共有する。

6 生徒が自ら学習を調整する姿

視点1「学習の見通し」●生徒の実態に即した単元の学習課題の設定と学習の見通しの共有

第1時 単元の学習課題を設定し学習の見通しをもつ場面

学習の振り返り
・この時間の学習の成果やこれから頑張りたいことはどんなことですか。
故事成語について全然知らなかったが、今日の一時間で少しでも故事成語について詳しく知ることができた。そして、<u>故事成語についてもっと知りたいと思った。</u>

図1 第1時の学習の振り返りの記述

いので、他の故事成語の成り立ちを勉強しながら考えていきたい」という記述からは、単元の学習課題の解決に向けて学習の見通しをもてた生徒の姿を見ることができる。その他「言葉の成り立ちを知ることのよさを考えて自分なりに答えを出すことができた。次は他のことをもっと深く考えてみようと思った。」「これから成り立ちについて理解できるようにしたい。」「もっと他の故事成語を学んでみたい。」といった記述が見られた。

図1は第1時の学習末に記載した学習の振り返りである。「故事成語について全然知らなかった」という記述からは現段階での自己の学習状況について自己理解を図ったことが伺える。また、「故事成語についてもっと知りたいと思った。」という記述からは、今後の単元の学習に対しての興味や意欲が喚起されたことが読み取れる。図2は、単元の学習課題に対して現段階の自分の考えがまとめられており、「もっと詳しく知りた

学習の振り返り
・この時間の学習の成果やこれから頑張りたいことはどんなことですか。
学習前の段階での「言葉の成り立ちを知ることの良さ」についてまとめることができました。<u>もっと詳しく知りたので、他の故事成語の成り立ちを勉強しながら考えていきたいと思いました。</u>

図2 第1時の学習の振り返りの記述

●生徒にとって必然性のある単元の学習課題の設定と学習の見通しの共有

生徒にとって本単元の学習を魅力的で必然性のある学習にするために、学習履歴の確認や実態把握、単元の学習のゴールの確認をした。国語科の学習内容は螺旋的、系統的に積み重ね発達段階に応じた指導事項が学習指導要領に位置付けられている。小学校学習指導要領国語第3学年の知識及び技能(3)我が国の伝統文化に関する事項イ「長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り使うこと」が示されており、先人の知識や教訓、機知に触れ学習をしてきている。そこで、実際に使用した教科書を提示しながら学習履歴の確認を行った。その結果「故事成語」とはどのようなものか、どのような学習を行ったかなどについて説明できる生徒は数名しかいなかった。しかし、小学校との学習のつながりについて全体で確認できたことにより、本単元での学習を通して「故事成語」についてより確かに、そして深い理解を目指していく方向性を共有することができた。また、単元の学習課題「言葉の成り立ち(故事)を知ることのよさは何だろうか。」に必然性をもって迫ることができるよう故事成語「完璧」を用いながら実態把握と、単元のゴールや学習の進め方を確認した。ロイロノートのアンケート機能を用いて「かんぺき」の漢字を「完璧」「完璧」で選択させた。正しく「完璧」を選択できた生徒は63.3%だったが、不正解者も含めどちらが正しいのか迷った生徒がほとんどであった。そのため、「完璧」の成り立ちを知り、「壁」ではなく「璧」という漢字が使用されていることを確認したことで「言葉の成り立ちを知ることの良さ」を考えるきっかけとすることができた。また、この際の教師の説明が本単元

「完璧」	
意味	完全で、欠けたところが全くないこと
解説 (成り立ち)	大国・秦の昭王が趙の国がもっている「璧」を手に入れるために、無謀な条件で交渉をしてきた。趙の国を代表してこの交渉に行ったのが蔣相如。交渉に行く際に趙の恵文王に言った言葉が語源となる「璧を<u>完</u>うしてかえらん。(璧を完全な状態で持ち帰ります。)」である。大秦を相手に素晴らしい外交手腕を見せ、「璧」を完全な状態で持ち帰ってきた。
補足 調べたこと等	補足 *趙-戦国時代の国 *蔣-戦国時代の人物 *蔣相如-趙の恵文王の側近
漢字の意味	完…欠けたところがない 璧…真ん中に穴が空いた、平べったい玉(宝)
例文	彼の氷上での演技はミス一つなく、完璧なものであった。

図3 学習モデルとなるシート

うなものか、どのような学習を行ったかなどについて説明できる生徒は数名しかいなかった。しかし、小学校との学習のつながりについて全体で確認できたことにより、本単元での学習を通して「故事成語」についてより確かに、そして深い理解を目指していく方向性を共有することができた。また、単元の学習課題「言葉の成り立ち(故事)を知ることのよさは何だろうか。」に必然性をもって迫ることができるよう故事成語「完璧」を用いながら実態把握と、単元のゴールや学習の進め方を確認した。ロイロノートのアンケート機能を用いて「かんぺき」の漢字を「完璧」「完璧」で選択させた。正しく「完璧」を選択できた生徒は63.3%だったが、不正解者も含めどちらが正しいのか迷った生徒がほとんどであった。そのため、「完璧」の成り立ちを知り、「壁」ではなく「璧」という漢字が使用されていることを確認したことで「言葉の成り立ちを知ることの良さ」を考えるきっかけとすることができた。また、この際の教師の説明が本単元

1年国語 単元学習シート		4 組	番
単元名	時を超える言葉「故事成語」～言葉の成り立ちを知る良さに迫る～		
学習材料	「今に生きる言葉 矛盾」		
故事成語	中国の歴史的な事実（故事）やエピソードから生まれた言葉		
学習前	言葉の成り立ちを知ることは？	ゴール 〇故事成語の学習を通して、「言葉の成り立ちを知ることの良さ」について自分の考えをまとめることができる。 〇漢文特有のリズムや言い回しなどの特徴を捉え、楽しむことができる	
1次時	【本時の課題】 漢文を声に出して読み、表現の特徴を捉えよう。	学習の振り返り この時間の学習の成果やこれから確認したいことはどんなことですか？	
2次時	【本時の課題】 「矛盾」の成り立ちを捉え、説明しよう。	学習の振り返り 「矛盾」について調べて、言葉の意味をよく理解することができたし、例文などを自分で考えて作るのがとても難しかった。	
3次時	【本時の課題】 自分が選んだ故事成語の成り立ちを捉えよう。	学習の振り返り 前回の学習を振り返り、言葉の成り立ちを捉えることができた。また、次の時間確認したいことはどんなことですか？	
4次時	【本時の課題】 故事成語の成り立ちを説明し合い、単元の学習課題に対する自分の考えをまとめよう。	単元の学習の振り返り この単元で学んだことを振り返り、これからの学習や生活でどのように生かしていきたいですか？	
学習後	言葉の成り立ちを知ることの良さは？	単元の学習の振り返り 自分の中でもっとその言葉について詳しく知ることができると、意味まで知っていることによって、その言葉を使って文を作ることがとても簡単になると思う。	

図4 単元学習シート

はなく、生徒も見通しをもつことができたことにより、主体的な学習の展開につながったと考える。

上記のように生徒一人一人に学習の必然性

や学習の見通しをもたせることをねらいとし、単元の導入の工夫を図った。更に生徒が自分の学びとして単元の学習を進めていくためには、学習計画の立案や課題解決の方法についても生徒とともに検討しながら適切に学びを委ねていくことができるような単元の導入の工夫を図っていくことが求められる。

視点2「学習課題を解決するための学習活動」●目的意識のある意図的な他者との対話的な学習

第3時 自分が選択した故事成語の成り立ちを説明するシートを作成する場面

第2時の「矛盾」の成り立ちについての学習を受けて、自分が選択した故事成語の成り立ちを調べて説明するカードの作成を行った。本時の導入において前時に生徒から提出された「矛盾の成り立ちカード」をクラウド上で確認し、本時の学習に生かしたいことについて確認を行った。また、教師からも前時に提出されたカードの好事例を視点①～③として示し(図6)、本時の学習活動に生かすよう指示を出し取り組ませた。

図7は「推敲」の成り立ちについて視点①を生かし、自分の言葉で要約しながら記載した生徒のカードである。図8は視点②を生かし「守株」の似た意味の言葉について記載した生徒のカードである。

成り立ち・解説

都に移動中に「僧は推す月下の門」という句を考えたが、「推す」ではなく、「敲く」に変えたらどうかと考えていました。従来の意味の繰り返すことにしていると、有名な詩人にぶつかってしまい、話をすると「敲く」の方がいいと言われたのです。そして、最初に考えていた「推す」から、後に考えていた「敲く」になったことから繰り返し繰り返すことという意味になった。

図7 視点①を生かし「推敲」の成り立ちを記載したカード

の学習モデル(図3)であることも確認し、具体的に学習活動への見通しをもたせることに寄与したと考えられる。さらに、本単元の学習を進めていくにあたり、「単元学習シート」(図4)を活用した。単元学習シートの活用により、単元の学習の流れを俯瞰してみることができ、見通しをもったり、学びを振り返ったりすることができる。更には、単元学習シートも含め単元で使用する資料やワークシートをロイロノートの1枚のカードに集約(図5)し、単元のゴールに向かってどのように学習が進んでいくのか具体的なイメージをもてるようにした。教師だけが課題解決の見通しをもつので

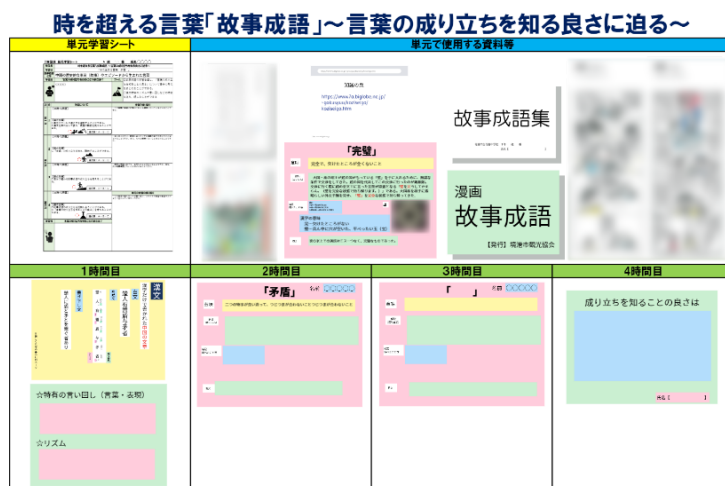


図5 学習で使用する資料等を集約したシート

- ①現代語訳をそのまま記載するのではなく、自分の言葉で要約しながら記載していること。
- ②【補足】のコーナーに「意味が似ている言葉」「反対の意味の言葉」の項目を設ける工夫をしていること。
- ③漢字一文字一文字の意味について漢和辞典を使い丁寧に調べていること。

図6 生徒に示した好事例の視点

図9は視点③を生かし「断腸」の漢字一文字一文字の意味を調べ、さらに「腸がズタズタ」という表現の意味についても説明を加え、より詳しく伝えようと工夫を図ったことが伺える。

本時は同じ故事成語を選択した生徒同士でグループを作り、対話し

漢字の意味

- ・断…断ち切る、切り分ける
- ・腸…はらわた、消化器官のひとつ

腸がズタズタ

子供を奪われ、肉体的・精神的に相当な、ストレスがかかった。現代でもストレスで胃に穴が開くと言うことがある。

図9 視点③を生かし詳しく意味を調べたカード

図11は、対話的な活動を通し、修正した生徒のカードである。図上段が途中段階で提出したカードであり、下段が修正したカードである。この二つの記述を比較すると、読み方が難しい語句「祭祀」に対して読み仮名をつけたり、会話文を挿入したりすることで分かりやすく、具体的に説明できるよう修正を図ったことが読み取れる。また、表1は第3時の学習の振り返りの記述である。

やすいような座席とした。また、途中段階で提出箱に提出させ、他者のまとめ方、説明の仕方等を参考にしたり質問したりする時間を設け、修正やブラッシュアップを促した。更に、授業後半では自分とは異なる故事成語を選択した生徒に自分の説明が伝わるか確認をさせた。生徒たちは、次時に向けて最終調整を行った。(図10)

似た言葉

- ・剣を落として舟を刻む
- ・琴柱に膠す

図8 視点②を生かし「守株」の似た意味の言葉を記載したカード



図10 説明し合う生徒の様子

楚の国にいた祭祀をつかさどる者が、自分の使用人たちに酒をふるまった。酒は数人で飲むには少なく、使用人たちは、蛇の絵を最初に描き終えた人が酒を飲むことにした。やがて一人が蛇を描きあげ、酒を飲もうとしながら「俺には足を描けるほど余裕がある。」と蛇に足を描かした。

楚の国にいた祭祀(さいし)をつかさどる者が、自分の使用人たちに酒をふるまった。酒は数人で飲むには少なく、使用人たちは、蛇の絵を最初に描き終えた人が酒を飲むことにした。やがて一人が蛇を描きあげ、酒を飲もうとしながら「俺には足を描けるほど余裕がある。」と蛇に足を描かした。そこでもう一人が描きあげ、最初に描いた人が持っていた酒を奪い、「蛇にはもともと足がないから、それは蛇の絵ではない。」と言い、そのまま酒を飲み干してしまった。蛇の足を描いた者は、その酒を飲み損ねてしまったのである。

図11 対話的な活動を通し修正したカード

表1 第3時の学習の振り返り

3時間目の振り返り
前の時間より、自分の言葉でまとめることができた。補足のところに意味が難しいところの説明を書くことができた。
他の人の工夫を取り入れて自分なりの文章にできたとし、例文や言葉の意味までかけた。
自分の言葉で書いたり長くなりすぎたりしないように、あまりいらぬ部分は削ったりした。似たような言葉を調べることができた。
前よりも言葉の意味や使い方をより詳しく調べることができてよかった。
言葉ができるもととなった出来事だけでなく、どうしてその漢字になったかもまとめられるようになった。次の時間では、初めて聞いた人でも分かるような説明をしたい。

振り返りの記述からは、前時の学習を生かし本時の学習を進められた生徒の姿、他者との対話を通し、相手意識をもちながら修正をした生徒の姿を読み取ることができる。更には、本時の学習での自己の成長について触れながら次時に向けての見通しをもった振り返りをした生徒の姿も見られた。

●目的意識のある意図的な他者との対話的な学習

第3時は自分の興味関心に沿って調べる故事成語を選択し、その成り立ちをまとめる学習活動を行った。第2時の共通教材「矛盾」の成り立ちについてまとめたカードをクラウド上で確認しながら、他者のカードのよさを確認した(図12)。クラウドを活用することにより学級全員のカードを手元で確認し、お互いの

よさを学び合うことができたと考える。また、全体のブラッシュアップを図るために教師からカード数枚を指定し、その良さの視点を示し共有を図った。

本時の学習課題を解決するための手段として他者との対話を位置付けた。授業前半では同じ故事成語を選択した者同士（図 13）の対話を通して、後半は違う故事成語を選択した者との対話を通して課題解決の充実を目指した。これを実現するために同じ故事成語を選択した者同士で座席を組むとともに、クラウド上で誰がどの故事成語を選択したのかが分かるようにした。そのことにより生徒は目的意識をもって他者と対話することができたと考える。また他者との対話の際には、何を調べたのか、どのように調べたのかも聞き合うことで、自力解決の手立てを獲得させた。本単元では、生徒が自力解決できる



図 13 同じ故事成語グループで対話しながら学習する様子

よう、漢和辞典や関連本の設置、「漫画故事成語」や必要な情報にアクセスできる「Web カード」を準備した（図 14）。

クラウドを活用し、個々の目的に沿って対話する相手を選択できることは ICT 活用の利点である。一方で必要な情報を自力で見付けることができない生徒がいたり、しっかりと吟味せずに他者の考えをまねたりする生徒もいるため情報活用能力の育成の視点をもちながら使用させていくことが今後更に重要となるであろう。

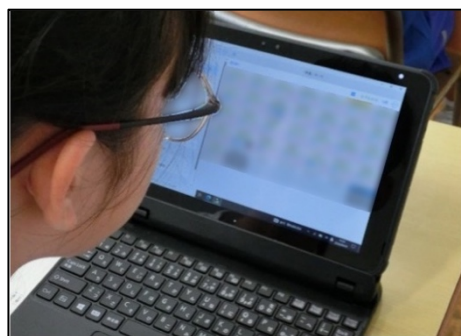


図 12 クラウド上で他者のカードを探す様子



図 14 漢和辞典や関連図書を活用し学習する生徒の様子

視点 3 「学習の振り返り」 ●単元の学びの実感や有用感を促す学習の振り返り

第 4 時 単元の学習課題を振り返る場面

単元の学習課題に対しての変容や深化を実感させるために学習前後の考えが比較できるように単元学習シートに記載させた。図 15 の抽出生徒の学習前後を比較すると、学習前は「言葉の意味がしっかりと分かるようになる」という記述のみだったが、実際に成り立ちを調べたり、説明したりする学習活動を通して「その言葉を正しい場面で使える。」という記載が加わり、語句を使用する場面へ視野を広げていることが伺える。さらには「成り立ちを調べるのは楽しいから、どんどん調べて知識も増えていく」という記載からは、語句がもつ奥深さを実感しながら学習を進めていくことのよさまで考えを広げていることが読み取れる。単元の導入時に、学習課題について唯一解を形成することが目的ではなく、自分にとっての最適解を形成することがゴールであることを確認し進めたことで、一人一人が自分自身の成長や達成感を実感することができたと考えられる（表 2）。

学習前 	言葉の成り立ちを知ることの良さは？ 言葉の意味がしっかりと分かるようになる。
学習後 	言葉の成り立ちを知ることの良さは？ その言葉ができるときの出来事を知ること、より深くその言葉の意味を理解することができる。その結果、その言葉を正しい場面で使える。成り立ちを調べるのは楽しいから、どんどん調べて知識も増えていく。

図 15 単元の学習課題に対する変容

表2 単元の学習課題に対する学習前後の比較

学習前	学習後
その言葉を使う場面がわかる。	その言葉の意味を細かく知り、この単語をどんな時に使えるかという判断ができるようになる。
言葉の正しい意味や使い方がわかる。	成り立ちを知ることで作った人の思いがわかると思った。また、言葉の正しい使い方を知ることができると思った。
※記述なし	成り立ちを知ることで今までなんとなくしか分からなかった言葉の意味が、本当の意味として分かり使えるようになる。〇〇さんの考えの「言葉一字一字に思いが込められている」というのに共感した。
言葉をうまく使えるようになる。いろいろな表現ができる。	今まで知らなかったり、意味が分からなかったりした言葉について、どのように使うか分かる。使える言葉も増え表現が豊かになる。

また、単元の振り返りとして「この単元で学んだことを振り返り、これからの学習や生活でどのように生かしていきたいですか。」の視点で振り返らせ記述させた。図16の抽出生徒の記述からは「自分の調べたことをみんなで共有する」といった学習過程に係ること、「言葉の楽しさを知れた」といった本単元の学習の達成感につながる記述が見られた。また「これから話すとき」や「会話で使っていきたい」と今後の生活場面を想定し有用性を実感していることが伺える。表3の記述からも多くの生徒が単元の学習と今後の言語生活を結び付けながら記述した様子が伺える。

単元の学習の振り返り
この単元で学んだことを振り返り、これからの学習や生活でどのように生かしていきたいですか。 自分の調べたことをみんなで共有しあうことで、言葉の楽しさを知ることができた。今回言葉の成り立ちを知れたことで、これから話すときにも生きていくと思った。会話で使っていきたいです。

図16 単元の学習の振り返り

表3 単元の学習の振り返り

単元の振り返り
この単元で学んだことをいかしてこれからも言葉の意味を理解しながら勉強をしていきたいです。他にも漢字一つ一つの意味も考えながら国語の学習をしていきたいです。
「矛盾」や「漁夫の利」について調べたことを生かして、日常生活の中で故事成語を使用していきたいと思った。これからも言葉の成り立ちについてたくさん調べてみたいと思った。
自分の知らない言葉やいろんな成り立ちについて最後までしっかり知ることができたので良かったと思いました。自分が興味を持った言葉を更に調べると、知らないことをもっと深く知ることができると思いました。
一つ一つの漢字の意味を考えながら書いたりしたい。理解したことを分からない人に教えることでより理解し、語彙力が高まると感じた。
故事成語について初めて学んで、難しい文章が沢山あったが、言葉の成り立ちや使い方について詳しく調べてから読み進めることによって、とても面白いと感じたし、初めて知る言葉だらけで驚きもあった。この4時間で学んだ言葉や文のつくりなどはこれからの国語の学習にいかして生きたい。

●単元の学びの実感や有用感を促す学習の振り返り

単元学習シートには毎時間の振り返りに加え、単元の学習課題に対する学習前後の考えを記載できるようにした。本単元では「読むこと」における考えの形成「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること」の資質・能力の育成を目指している。そのため、自分の考えが単元の学習を経てどのように確かなものになったのか、広がったり深まったりしたのかワンペーパーに記すことで簡単に比較することができより実感を伴ったものになったと考えられる。また、単元全体の振り返りでは学習内容や課題解決の方法を振り返るだけではなく、今後の学習や日常生活に生かす視点をもたせて記載させたことにより、学習したことの有用感や達成感を自覚させるとともに、生徒が今後の学習に対してより主体的に学びを進めていこうとする態度の育成に繋がっていくと考えられる。